

近畿国立病院薬剤師会

会誌

Vol.67
2021年8月

目 次

提言.....	2
	やまと精神医療センター 森 英人
薬剤部紹介.....	4
	東近江総合医療センター 庄野 裕志
第 14 回日本緩和医療薬学会年会参加報告.....	6
	大阪南医療センター 澤村 忠輝
Web 交流会に参加して.....	7
	大阪医療センター 岸田 啓太郎 兵庫中央病院 八丸 香南子
キャリアアップ研修会に参加して.....	9
	国立循環器病研究センター 今西 嘉生里
趣味のページ.....	10
	舞鶴医療センター 野田 拓誠
編集後記.....	11

提 言

やまと精神医療センター 森 英人

先日、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、1年遅れで開催された東京オリンピックが閉幕しました。2013年9月に、2020年の夏季オリンピックが東京で開催されることが決定してから約8年、世界状況がここまで変わることを誰もが予想していなかったのではないのでしょうか。一部の競技では、特定の会場で観客を入れての開催であったが、原則、無観客での開催となりました。皆様の中には、観戦チケットが当選して、会場での観戦を楽しみにしておられた方もいたのではないのでしょうか。大会は、日本選手団の活躍により、過去最高の27個の金メダルを獲得し、金銀銅を合わせたメダル獲得数も58個となり、こちらも過去最高の結果となりました。次の大会は、本来ならば4年後ですが、3年後の2024年にフランスのパリで開催される予定です。

ところで、その2024年は、4月から、一般の業種では既に導入されている時間外労働の上限規制が医師にも適応され、勤務医の時間外労働時間が原則年間960時間以内となるよう各医療機関での取り組みが求められます。その取り組みの一つが、医師から多職種へのタスク・シフティング（業務の移管）やタスク・シェアリング（業務の分配）です。薬物治療の専門家である薬剤師には、大幅なタスク・シフトやタスク・シェアリングが可能だと考えられています。具体的には、「ハイリスクな部門での薬剤業務」、「薬剤投与および管理」、「薬の説明や服薬指導」、「処方提案」、「プロトコールに基づく薬物治療管理（PBPM）」などですが、よく考えてみるとこれらの業務は、すでに何年も前から各施設で行われている業務かもしれませんが、更に踏み込んだ介入が期待されているということです。

しかし、タスク・シフトやタスク・シェアリングをすればその分、薬剤師が担う業務量が増えるため、我々薬剤師もまた自身の働き方改革を工夫しなければなりません。それには、今までの環境や体制などを見直すことも必要であり、古き良きものは残して、古き悪しきものは変えていくことが必要であると考えます。医師の働き方改革と同様に、薬剤師もまたより良い環境で仕事ができるように工夫する必要があります。その一つとして、少し前にはありませんが、2019年4月に厚生労働省から発出された、いわゆる「0402通知」は薬剤師の負担を軽減すべく、調剤業務のありかたについての新しい考え方を発信しています。これをうけて、各施設では、既に非薬剤師に業務の一部をタスク・シフトあるいはタスク・シェアリングをすることによって薬剤師業務の見直しを実施していることと思います。それ以外にも、最近よく耳にするAI（Artificial Intelligence：人工知能）やICT（Information and Communication Technology：通信技術を活用したコミュニケーション）などの技術を活用することによって業務の効率化を進めることも必要になってくると思います（これには、施設の規模や費用面などハードルが高いかもしれませんが）。

以上のように、色々と偉そうなことを述べてきましたが、タスク・シフトやタスク・シェ

アリングを行うには、薬物に関する専門知識を有する薬剤師の活躍は必要不可欠であると考えます。新薬が次々と登場し、更に新しい治療法が出てくる中で、患者様一人ひとりにとってより最適で安全な薬剤選択を提案できる薬剤師の役割は、今後ますます重要になってきます。そのためにも、常に情報収集に努めそして自己研鑽を重ねて、薬の専門家としての実力を大いに発揮していきましょう。

薬剤部紹介

独立行政法人 国立病院機構



東近江総合医療センター

National Hospital Organization Higashi-ohmi General Medical Center

<病院概要>

東近江総合医療センターは、滋賀県東部に位置する東近江市にあります。八日市インターチェンジに隣接しているため、高速道路を利用することで、京都市中心部まで約1時間の場所にあり、周辺の環境としては、鈴鹿山脈が近く、車で少し行けば山や川などの豊富な自然があり、キャンプ場なども整備されています。

当院は1941年2月に八日市陸軍飛行連隊病院として創立されました。1945年に厚生省へ移管され国立八日市病院となった後、病院の統廃合等があり、2013年4月に独立行政法人国立病院機構 東近江総合医療センターという現在の名称の病院へと生まれ変わりました。

病床数 320 床（一般 304 床・結核 16 床）、標榜診療科は 26 診療科の急性期総合病院で、2014 年 4 月に滋賀医科大学地域医療教育研究拠点としての協定を締結し、2017 年 7 月から地域包括ケア病棟を立ち上げ、2019 年 4 月からは地域医療支援病院の指定を受けています。近江商人に伝来する「三方よし（相手よし、自分よし、社会よし）」の精神に加え、「未来よし」の視点をもって、地域に根ざした中核病院としての役割を果たせるよう高い水準の医療を目指しております。



<薬剤部概要>

薬剤部は薬剤部長、副薬剤部長、主任 4 名（調剤主任、製剤主任、薬務主任、病棟業務管理主任）、薬剤師 8 名、薬剤助手 1 名の計 15 名で構成されています。

調剤、製剤、薬務、DI、病棟、治験と従来からある業務についてより効率的に運用できるよう日々試行錯誤を繰り返しています。

そのような中、2020 年 10 月より連携充実加算算定の施設基準を取得し、外来化学療法室でがん化学療法をうける患者への介入を全例へ拡充、保険薬局へお薬手帳を介した情報提供を行い、地域の保険薬局と連携して安全な薬物療法に貢献しています。さらに、同年度よ

り日本臨床腫瘍薬学会のがん診療病院連携研修施設となり、保険薬局とのさらなる連携を模索しています。

2019年度より東近江医療圏の薬剤師会と連携し勉強会を行っていますが、2020年度はコロナによる影響で対面での講演会は中止し、web開催を試みましたが、2020年12月より、「疑義照会事前同意プロトコル」を導入し、処方変更については、代行修正を行い、医師の業務負担軽減に貢献しています。

2021年2月より手術予定での入院患者を対象とした入院前面談を開始しました。また、退院指導にも力を入れており、入院前から退院、外来へ切れ目のない薬剤管理ができるよう努めています。



(文責：庄野 裕志)

第 14 回日本緩和医療薬学会年会参加報告

大阪南医療センター 澤村 忠輝

本年度 5 月に開催された緩和医療薬学会年会の参加報告をさせていただきます。

私は NHO に入職後、宇多野病院に約 5 年在籍し、現在は大阪南医療センターで 2 年目を迎えました。前施設は慢性期疾患がメインでしたので、がん領域の知識・経験が乏しく、異動直後は化学療法・緩和医療に戸惑うことが多くありました。しかし新しい知識を身につけることは楽しく、日々充実して過ごすことができます。

今年度から新たに緩和ケアチームの一員となり、週に 1 回のカンファレンス・病棟ラウンドに参加していますが、力不足を実感しています。医療用麻薬のスイッチングの方法や使い分けなどの相談を多く受けますが、回答に時間がかかるケースもあり基本を身につける必要性を痛感していました。そんな中、今回の学会開催の案内を見て参加を決めました。

年会は岡山県で開催予定でしたが新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となりました。おかげで、気軽に参加することができました。他の学会や講習会も同様にオンライン開催であれば移動時間が省かれますし、またオンデマンド配信制であれば好きな時間に動画視聴できるので、個人的には有難い環境であると感じています。コロナ禍で他施設との交流機会が少ないのは残念ですが、近年のオンライン開催の流れは自己研鑽を深める良い機会と捉え、様々な外部の学会に参加し、より一層、知識の向上を図りたいと考えています。本年会では緩和医療関連の薬剤の使用方法を基礎から学ぶことができ、その根拠となるデータも沢山紹介していたので非常に勉強になりました。特に各オピオイド鎮痛剤の薬物動態の特徴を集中的に学習できたことで、最適な治療薬の選択や副作用管理に活用できる気がして業務へ意欲が掻き立てられました。

学会参加で得た新たな見識を緩和ケアチームの一員として最適な薬物療法に生かして貢献することはもちろん、患者やその家族の精神的な負担にも寄り添いサポートできるよう、一層チームで取り組んでいきたいと思えます。まだまだ先の見通しが立たない中ではありますが、皆様も体調管理にはくれぐれもお気をつけください。お読みいただきありがとうございました。

Web 交流会に参加して

大阪医療センター 岸田 啓太郎

6月19日に開催されましたWeb交流会に参加させていただきました。例年、この時期には新採用者の交流会がありますが昨今の事情からWeb上で開催という形になりました。今回の対象は1-3年目の薬剤師で参加者は52名、見学者が40名でした。私は入職して1年目で他施設の先生方と親睦を深める良い機会だと思い喜んで参加させていただきました。

私はパソコンに不得手なのでWebでの参加に不安もありましたが、事前に丁寧なマニュアルを頂き、それに従って設定、アクセスを行うことにより無事参加することができました。

河合先生のご挨拶の後、グループに分かれご用意いただいた3つの企画に参加しました。

1つ目の企画はクイズでした。ファシリテーターの先生の出題されたクイズをZoomのチャット機能を用いて解答する、という形式で全5問の得点を競いました。ジャンルは多岐にわたり、ファシリテーターの先生の全員が楽しめるような進行もあってとても楽しい時間を過ごすことができました。

2つ目の企画は以心伝心ゲームでした。出題者が『○○の○○は?』とお題を出し、それについて他の人が回答して一致した人数の数を競いました。予想外のお題、回答が飛び交う場面もあり、大いに盛り上がりました。

3つ目の企画はフリートークで、同期の先生とざっくばらんに話すことで交流を深めることができました。私が参加したグループでは日頃の業務の話題になり、他施設の1年目の先生がどのような業務を行っているか、ということを知って大いに刺激を受けました。

その後、クイズと以心伝心ゲームのポイントの上位獲得者が発表され、入賞者には賞品と賞状が贈られました。

最後に永井先生よりご挨拶を賜り閉会となりました。

今後ともこのような機会を活かして自施設だけでなく、他施設の先生方と交流を深め、自分の知識、見分を広げていきたいと考えております。

末筆になりましたが本企画にご尽力くださったすべての先生方に御礼申し上げます。

WEB 交流会に参加して

兵庫中央病院 八丸 香南子

開催日時 令和3年6月19日 14:00~16:00

仕様 Zoom

6月19日に行われたWEB交流会に卒後12年目ですが、本年度より東海北陸グループより転任となり、他施設の先生方と交流できるよい機会と思い、新人として参加させていただきました。例年では1泊2日での開催であるとのことですが、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で2020年度は未開催、本年度は2年ぶりに初の試みとしてWEBにて開催となりました。

交流会は参加者を3つのセッションでそれぞれ別のグループに分けられ、セッション1は一般的な問題のクイズ、セッション2は以心伝心ゲーム、セッション3はフリートークで、セッション1、2では正解するごとに1ポイント獲得できるというルールでした。どのセッションもファシリテーターの先生方のわかりやすい説明とスムーズな進行で滞りなく進行していきました。私も最初はどのように話をしているか戸惑っていましたが、ゲームを通じて緊張もほぐれ、よい交流の場となったと感じました。ゲームの中で特に印象的だったのはセッション2での以心伝心ゲームです。出題者のお題に回答者の答えが一致した数で、ポイントが加算されるシステムでした。自分と同じ考えの方が多いお題もあれば、全員の回答が異なり様々な意見が飛び出しました。中には自分には想像もつかない興味深い回答もあり、個々の考え方や価値観の違いがあるのだと改めて実感しました。残念ながら私は上位入賞することができませんでしたが、入賞された方には表彰状、商品が送付されたようです。

2時間という短い時間でしたが、他施設の先生方とWEBという今までとは違った形での交流ができ有意義な時間が過ごせたと思います。今回の交流を業務での意見交換等につなげていきたいと思います。近い未来、新型コロナウイルス感染症が終息し、直接交流できる日が来ることを切に願います。

末筆ではございますが、今回の交流会を企画、準備をしてくださった先生方に厚く御礼申し上げます。

キャリアアップ研修会に参加して

国立循環器病研究センター 今西 嘉生里

循環器病研究センターの今西嘉生里と申します。令和3年7月10日にオンラインで開催された、キャリアアップ研修会に参加させていただきましたので報告いたします。

就職して以来ずっと主任や先輩に頼りきりで、自分が主任になったらものすごく苦勞するだろうなと感付いてはいましたが、今年の4月に主任になり、予想通り悩むことばかりの毎日なので、キャリアアップ研修会を通じて何かしらのヒントを得られるのではと期待していました。

今まで講義を受ける際は、自分が知識を習得することを念頭に置いていましたが、今回の講義では、習得した知識をどのように周囲の人に伝えるかを考えることができました。例えば、どの資料を用いてどう伝えるかなど、今までとは異なる着眼点で講義を聞くことができたと思います。主任という立場上、自分が業務を行うことだけではなく、全ての人が円滑に業務を行うことができるように気を配ることが大事だと思います。今回の研修内容を踏まえて、業務上の重要事項をどのように伝えるか、他の主任と連携を取りながら考えていきたいと思いました。

また、研修を通じて、調剤ミスの減少や薬剤管理指導件数の増加を目指した取り組みなど、他施設の現状を知ることができました。薬剤師会の行事のたびに思いますが、このような情報を共有できるところが、グループ病院の強みだと感じました。同じようなことで悩んでいる場合、他院の取り組みを参考にしながら業務改善に取り組んでいこうと思います。

ところで、私が職場の先輩主任からもらったアドバイスの中に、「自分が他の主任の立場ならどのように業務に取り組むかを常に考えておくと、担当が変わった時に役に立つ」というものがあります。今回の研修のおかげで、他の主任の業務内容や思考回路を学ぶことができたので、それぞれの立場を想像しやすくなりました。今後どの担当になったとしても、円滑に業務ができるよう、日々考えながら業務に取り組みたいです。

今後も悩むことは多いと思いますが、キャリアアップ研修会で学んだことを生かして、周囲の人と連携を取りながら業務に取り組もうと思います。

最後になりましたが、お忙しい中分かりやすい講義をしてくださった先生方、ありがとうございました。

趣味のページ

舞鶴医療センター 野田 拓誠

京都医療センター 江島 怜那先生よりバトンを受け継ぎました、舞鶴医療センターの野田 拓誠です。江島先生とは昨年 12 月まで京都医療センターで一緒に働かせてもらいました。ひたむきに業務に取り組み、気配りも上手で大変頼りになる後輩でした。また一緒に働ける日を楽しみにしています。

趣味はスポーツすることやフェス・旅行に行くことなのですが、コロナ禍でなかなかできない状況が続いているので今回は「おうち時間」の過ごし方をご紹介します。

京都市内に住んでいたときは周りに飲食店も多かったため、バランスよく食事ができていたのですが、舞鶴には飲食店も少なく、料理も苦手なのでどうしても栄養が偏ってしまう問題が発生しました。そこでスムージーなら様々な野菜やフルーツから栄養を摂れるのではと思い、ミキサーを買いました。小松菜や人参といった野菜にリンゴやバナナといったフルーツを日によって組み合わせを変えて、成功や失敗を繰り返しながら毎日楽しんでいきます。8 月中旬から梨がスーパーにも並ぶようになり、最近の一押しは梨と小松菜にレモンを少し入れたスムージーです。さっぱりした味でまだまだ残暑が残る中、とても美味しく味わえます。ぜひ試してみてください。



最近では、リングフィットアドベンチャーや、スポーツバイクを買ったので身体を動かして行きたいと思います。オリンピックに刺激をされ新しいスポーツにチャレンジしたくなりました。おすすめのスポーツがあればぜひ教えてください。

以上ちっぽけな日常をつらつらと書かせていただきました。お読みいただきありがとうございました。次のバトンは循環器病研究センターの永田 理香子先生にお願いします。永田先生は大学時代の部活の後輩にあたります。また一緒にテニス出来たら良いですね。次回よろしくお願いします。

